

北九州市平成 22 年度きらきら助成事業

北九州市の「きらきら助成事業」に採用されて、私たちが今取り組んでいる事業は、授産品バザーの開催（奇数月の第 3 土曜日）、障害者施設やボランティア団体との交流会、障害者の支援や共同事業に取り組んでいるボランティア団体や企業、教員などに対するアンケート調査の 3 つです。

このうちの、アンケート調査については、北九州市内の約 100 件に上るボランティア団体と、この問題に取り組んでおられる約 30 名の先生方にアンケート票を送付したところでした。この後は障害者福祉を幅広く事業化されている企業や、公的支援機関（ボランティア協会、ボランティアセンター等）にも協力していただき、「障害者施設と地域を結ぶハンドブック」を作成することになっています。

今後、アンケートのとりまとめ、冊子の編集などの作業でお手伝いしていただける方を募集しています。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

連絡先；実行委員会事務局 電話 090 - 2710 - 6810(ﾏｯｸ) f a x 691 - 0686

旧西鉄電車・6連赤煉瓦アーチ高架橋の保存活動について

折尾駅前の旧西鉄電車・赤煉瓦アーチ高架橋は『ねじりまんぼ』（まんぼ＝トンネル）という特殊な工法で、日本最大級であり、現在これを作る職人はいません。

7 月に「土木学会」から北九州市に「折尾高架六連アーチ橋の保全活用に関する要請」が出され、新たに下記のことを判明しました。

通常の「まんぼ」と「ねじりまんぼ」が連続するのは折尾しかなく、2つの構造を比較できることから、土木技術史の教科書的存在。

大正期の長大な煉瓦造り連続アーチ橋は、日本に 2 つだけ現存する貴重な土木遺産である。（当初は 9 連、他は同年に竣工された、東京＝新橋を結ぶ高架橋）

北九州市の近代化の歴史の記念碑的な構造物。

都道府県の有形文化財に値する。

8 月上旬、東筑高校同窓会『暁の松』と当会（学園＆地域交流ネットワーク）から高架橋の保存と提案について北九州市・北橋市長に保存の要望書が提出されました。

主な内容はかきで、署名活動も行ないました。

西鉄電車ビルだけを取り壊して、道の中央に折尾駅の姿が見えるようにしていただきたい。

取り壊しの決定している折尾駅舎と一緒に見える時期は今だけしかなく、来年 2 月の鉄道開通 120 周年イベントで PR することで、衰退している折尾の街を元気にする起爆剤になる。

門司港や若松などのレトロをつなぎ、『北九州市レトロ』として観光にしていきたい。など

8 月 24 日付けの北九州市から「9 月からビルの解体工事にあわせ、高架橋を解体・撤去する」との回答がありました。

現在、「ねじりまんぼ」のある 3 連も、保存確定ではありません。「折尾駅舎」も、「日本最古の立体交差」も、「赤煉瓦の連絡通路」も、「掘川沿いの飲食街」も、折尾地区総合整備事業で取り壊し予定です。残るものは「3 面コンクリートの掘川運河」だけかも知れません。これが、「折尾の地域目標：近代化産業の歴史弥身近な水辺などの自然を活かし、住む人が誇りを感じ、訪れる人に感動と癒しを与える折尾らしさのある街」でしょうか。取り壊したものは復元できません。本物を残し、歴史を将来につなげていくまちづくりを願います。